

新宿区次世代育成支援計画（第三期） 新宿区子ども・子育て支援事業計画
（平成27年度～31年度）（素案）
地域説明会における区民意見について

「新宿区次世代育成支援計画（第三期） 新宿区子ども・子育て支援事業計画（平成27年度～31年度）」の策定にあたり、平成26年11月に素案を公表し、パブリック・コメント及び地域説明会を行って、計画策定の参考とさせていただきました。

区民の皆様には、多数のご意見・ご提案をお寄せいただきありがとうございました。

以下は、地域説明会でのご意見を整理したものです。

1 計画内容、計画の構成に関すること

■記載方法を検討し、よりわかりやすい計画にしてほしい。

- 計画の特徴と盛り込むべき内容
- わかりやすい用語
- 表記の統一
- 財源確保
- 次世代育成支援計画と子ども・子育て支援事業計画の関連
- 給付の仕組み
- 平成30、31年度の取組み内容

■計画策定にあたり、下記の点について検討してほしい。

- 事業と費用のバランス
- 達成率
- これまでの実績や虐待通報件数等の掲載
- 災害・防犯対策
- 子どもの権利・義務及び子どもの権利条約との関連性

■計画の策定方法や基礎データについて質問したい。

- 人口推計の算出方法
- 次世代育成協議会のメンバー構成
- 区が従前から取り組んできた事業を、新たに子ども・子育て支援事業計画として位置付ける理由

■計画策定にあたり、ビジョンや理念をしっかりと持ち、区民と共有してほしい。

- 計画の総合ビジョン「子育てコミュニティタウン」の幅広い周知
- 子どもたちがどう育ち、どういう大人になってほしいかのビジョン
- 高齢者・介護の計画と、本計画を貫くネーミングやコンセプトの設定

2 量の見込み、提供区域について

■介護保険事業計画と子ども・子育て支援事業計画で区域が異なるのはなぜか。

■3区域を区分した根拠や意味合いは何か。地域を横断する通園も考慮してほしい。

■東南地域に位置付けられている筆筈町地域から角筈地域の通園は距離的に考えられない。

■「幼稚園における園児を対象とした一時預かり事業」は、区立幼稚園も実施する見込みで確保数を増やしたのか。

■待機児童解消に向け、平成23年度から26年度で受入枠を増加したが、それ以上に入園希望者が増えた状況がある。量の見込みはそうした状況も見込んで算出しているのか。

3 保育園・子ども園・幼稚園の整備、運営について

- 下記の問題があるため、認可保育園をさらに増やしてほしい。
 - 待機児童の増加
 - 保育園等に入れなければ復職したくてもできない
 - 大規模開発等による子どもの数の増加見込み
- 保育園の質の確保のため、下記の点に留意してほしい。
 - 園庭や日当たりの確保
 - 事業者の選定方法
- 保育需要が特に逼迫している地域への取り組みを進めてほしい。
 - 筆筈町地域
 - 落合第一地域
- 待機児童解消のため、下記の取り組みをおこなってはどうか。
 - 区内の大学に依頼して空き教室を活用
 - 閉園した区立保育園の再開
- 保育園が地域に受け入れられるよう、マナーの徹底をしてほしい。
- 財政的負担が大きい待機児童解消対策を今後も続けるのか。
- 保育園、子ども園、幼稚園の職員配置の改善や処遇改善については、素案のどこに記載しているのか。
- 保育園等の更なる整備に向け、工夫して欲しい。
 - 児童館に保育園を併設してはどうか。
 - 閉園した民間幼稚園を再開し、運営を委託してはどうか。
 - 仮園舎として使用していた施設を常設して運営してはどうか。

4 学童クラブ・放課後子どもひろばについて

- 学童クラブニーズについて
 - 計画中に、学童クラブの量の見込みへの言及が少ないのではないか。
 - 新制度で学童クラブ入所対象が小学校6年生まで拡大されるが、区はどう対応するのか。
 - 学童クラブで待機児童を出さないことを明記してほしい。
 - 需要が逼迫している地域には、需要に見合った面積、定員の学童クラブを増設すべき。
 - 需要増が見込まれる地域は学童クラブの定員拡充を検討するというが、具体的にどのような対策をいつまでに行うのか。
 - 学童クラブの面積確保のため、小学校施設の更なる活用を検討してはどうか。
- 放課後子どもひろばの機能拡充について
 - 学童クラブと放課後子どもひろばは目的・機能が異なるため、学童クラブのニーズに放課後子どもひろばの機能拡充で対応すべきではない。
 - 学童クラブと放課後子どもひろばの違いについて保護者が混同しないよう、わかりやすい記載・説明に努めるべき。
 - 学童クラブでは子どもの生活を管理してもらえる利点があるため、放課後子どもひろばの機能拡充では学童クラブと同等の対応・安心は得られないのではないか。

- 学童クラブと同様の機能を持つのに利用料が異なるのはなぜか。
- 放課後子どもひろばの場合、おやつ時間が 17 時半以降になる所があるが、もっと適切な時間に出すべき。
- 長期休暇中のみの利用は、26 年度末の春休みから実施するのか。
- 放課後子どもひろばの充実については素案のどこに記載しているのか。

5 子育て支援施設全般について

- 児童館の拡充のみではなく、児童館がない地域への新設も考えてほしい。
- 児童館の民営化は良い面もあるが、適切な運営のためにはしっかりした内部管理が必要。
- 指定管理者は 5 年毎に選定されるため、事業者が変更された場合、5 年間で築いた地域、保護者、学校等との関係性が途切れてしまい、子どもが影響を受ける。
- 子育て支援施設と高齢者施設のあり方や複合についてどう考えているか。
 - 保育の量の見込みは、将来的な高齢者施設への転用も想定し、多目に見積もってほしい。
 - 子育て支援施設を高齢者施設として活用することの考え方を示してほしい。
 - 中央図書館跡地に建設する施設を、保育施設と高齢者施設の複合施設とした理由は。
 - 区がこれまで、保育施設と高齢者施設を複合施設ではなく単体で整備してきたのはなぜか。
 - 児童館とシニア活動館等の併設施設では、子どもと高齢者の交流は計画されているのか。

6 子育て環境全般について

- 子どもの居場所を充実させてほしい。
 - 球技可能な公園の増設
 - 児童館の増設
 - 図書館等、子どもが過ごせる場所の充実
- 子どもを取り巻く環境を改善・整備してほしい。
 - 子どもの貧困に係る区の特徴把握、問題認識、対応検討
 - 子どもの生活習慣の改善
 - 多少の怪我などに神経質にならない意識を区、保育士、地域で共有
 - しっかり遊べる環境整備
- 地域子ども・子育て支援事業について詳細を知りたい。
 - 「乳児家庭全戸訪問事業」の事業内容、実施状況
 - 「利用者支援事業」の実施場所
 - 新規事業の「利用者支援事業」、「実費徴収に係る補足給付を行う事業」の位置づけ
 - 「実費徴収に係る補足給付を行う事業」の実施予定

7 子育て支援情報の提供について

- 子育てに関する悩みの相談先が見つけれなく、情報が入手できなければ、様々な事業も利用できない。子どもごとに適した事業を案内するコーディネーターが欲しい。
- 休暇の取りにくい職場や、平日の相談が困難なひとり親家庭もある。必要な情報やプランを総合的に提示してほしい。

- 子どもを持つ知人が重病になり、インターネットで支援場所や事業を探したが見つからなかった。病気の保護者への支援策等はあるのか。

8 区民参加に関すること

- 「子育てコミュニティタウン新宿」の実現に向け、地域住民として協力できることはあるか。
- PTAや地域活動等を通じて人材が育ち、地域を支えていくと思うが、子育て支援施設が増え、便利になった世の中では、自らが支える側として苦労しようという人が育たない。支え合いがいつまで続くのか不安。
- 親と子のひろば等でのボランティア活動状況について説明してほしい。
- 再開発等で建設されたマンションについて、町会に入らない例が増えている。区はどのように考えているのか。

”

9 ワーク・ライフ・バランスについて

- 子育て支援サービスの提供も大事だが、親子が一緒にいる時間も大切。ワーク・ライフ・バランスを充実させ、子育てしやすく、子どもとの時間を十分持てる社会づくりをすべき。

10 その他

- 本計画の予算が、一般会計予算の約1,800億円に占める割合はどの位か。
- 消費税率10%の増税が延期され、子育て支援事業における優先順位や、一部凍結及び計画先送りへの懸念が聞かれる。どの程度影響があるのか。